

図書館だより

武雄高校図書館 図書指導部
令和5年 2月21日発行

立春も過ぎ、梅の花が少しずつ春の訪れを感じさせてくれる季節となりました。
今年度も残り1カ月。新学期に向けて、新たなステージにチャレンジをしてください。

第168回芥川賞・直木賞 受賞作が発表!

1月19日に、第168回芥川賞・直木賞の受賞作が発表されました。

芥川賞に、初候補で受賞となった井戸川 射子さんの『この世の喜びよ』と、佐藤 厚志さんの『荒地の家族』。直木賞には、小川 哲さんの『地図と拳』と千早 茜さんの『しろがねの葉』が選ばれ、いずれもダブル受賞となりました。

これらの受賞作は本校図書館にも入れていますので、読んでみてはいかがでしょうか。

🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸 **芥川賞 受賞作** 🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸



*芥川賞・・・文藝春秋の創業者・菊池寛（1888～1948。代表作『恩讐の彼方に』）が、友人である芥川龍之介（1892年～1927年。代表作『羅生門』など）の名を記念し、1935年に制定。雑誌（同人雑誌も含む）に発表された、新人作家による純文学の中・短編作品から選定。



『この世の喜びよ』 井戸川 射子【著】

幼い娘たちとよく一緒に過ごしたショッピングセンター。喪服売場で働く「あなた」は、フードコートの常連の少女と知り合う。かつての子育ての日々を思い出す女性―「この世の喜びよ」。ハウスメーカーの建売住宅にひとり体験宿泊する主婦―「マイホーム」。父子連れのキャンプに叔父と参加した少年―「キャンプ」。



『荒地の家族』 佐藤 厚志【著】

あの災厄から十年余り、男はその地を彷徨いつづけた。元の生活に戻りたいと人が言う時の「元」とはいつの時点が…。40歳の植木職人・坂井祐治は、あの災厄の二年後に妻を病気で喪い、仕事道具もさらわれ苦しい日々を過ごす。地元の人々も、くすぶった境遇には変わらない。誰もが何かを失い、元の生活には決して戻らない。仙台在住の書店員作家が描く、止むことのない渇きと痛み。



直木賞 受賞作



*直木賞・・・文藝春秋の創業者・菊池寛が、友人である直木三十五（1891年～1934年。代表作『南国太平記』）の名を記念し、1935年に制定。新人・中堅作家によるエンターテインメント作品の単行本（長編もしくは短編集）から選定。

『地図と拳』 小川 哲【著】

19世紀末から1950年代にかけての中国東北部の満州を舞台にした空想歴史小説。



「君は満洲という白紙の地図に、夢を書きこむ」日本からの密偵に帯同し、通訳として満洲に渡った細川。ロシアの鉄道網拡大のために派遣された神父クラスニコフ。叔父にだまされ不毛の土地へと移住した孫悟空。地図に描かれた存在しない島を探し、海を渡った須野…。奉天の東にある“李家鎮”へと呼び寄せられた男たち。「燃える土」をめぐる、殺戮の半世紀を生きる。

『しろがねの葉』 千早 茜【著】

戦国末期、シルバーラッシュに沸く石見銀山。



天才山師・喜兵衛に拾われた少女ウメは、銀山の知識と秘められた鉱脈のありかを授けられ、女だてらに坑道で働き出す。

しかし徳川の支配強化により喜兵衛は意気阻喪し、庇護者を失ったウメは、欲望と死の影渦巻く世界にひとり投げ出された…。

繰り返し訪れる愛する者との別れ、それでも彼女は運命に抗い続ける。



3月27日(月)から蔵書点検を行います。
そこで、蔵書点検をお手伝いしてくれる人を募集しています。
つきましては、お手伝いしてくれる方は、**2月21日(火)終礼後、図書館にご集合ください!**

今月の新刊案内は・・・『読んだらやめられないとまらない時代小説!』

*時代小説「過去の時代や人物・出来事を題材として創造された小説」江戸時代が多く、笑えるもの・ほのぼのしたものまで時代小説の魅力を紹介(^)/
*歴史小説「実在した人物や出来事をもとに、史実に創造を加えて書かれた小説」疑似体験を楽しみながら、日本史の知識を蓄えられます!

忍者と共に勝ち抜いた戦国時代

池波正太郎【著】『真田太平記(1)～(12)』



ときは室町時代後期の戦国時代、真田家は巧みな情報収集によって勝ち抜き、江戸幕府が開かれたあとも繁栄を続けます。その手段が忍び、つまり忍者という点が面白い。忍者を立てた戦略とはどういうものなのか、そして江戸幕府とも敵対する真田家は、どうやってゆくのか…。

こんな人におすすめ!

忍者と情報合戦に興味がある人に★

美味しい食べ物が世界を救う

高田郁【著】『八朔の雪-みをつくし料理帖(1)～(11)』



ヒロインの漣(みお)は料理人であり、大阪生まれながら江戸で懸命に働きます。美味しい食べ物によって人を幸せにするというテーマの時代小説。

こんな人におすすめ!

美味しい食べ物で、美味しい読書がしたい人にどうぞ★

予測を裏切る展開に毎回ワクワクがとまりません!

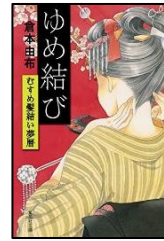
瀬川 貴次【著】『ばけもの好む中将(1)～(11)』



二人の貴族が都で起きた怪奇な謎を解決していく物語です。主人公をとりまく十二人の姉との人間模様も一つのエッセンスになっています。短編が合わさっているとおもしろい、読み進めていくと最後に一つのストーリーになっています。

こんな人におすすめ!

平安ミステリーを堪能したい人にどうぞ★



倉本 由布【著】『ゆめ結び(1)～(3)』

ときは江戸時代。女髪結いに憧れる武家の娘の話。運命に翻弄されながらも、「好き」を力に変えて懸命に生き夢を追う少女の物語。



あさのあつこ【著】『おいち不思議がたり(1)～(4)』

ときは江戸時代。深川の菖蒲長屋に暮らす16歳の「おいち」。幼い頃に母を亡くし、貧乏医師である父の仕事を手伝っている。医者を目指す明るく健気に暮らしている。実は「おいち」には人には見えないものが見える不思議な力を生かす。青春時代ミステリー。

「平家物語」ができる西行自身の物語!

夢枕 獯【著】『宿神(1)～(4)』



のちの西行こと佐藤義清と平清盛。若き日の二人は北面の武士として友情を育んだが、志半ばの中で世を去った者たちへの思いを背負って、武士を捨て、出家をした西行。

保元の乱から平治の乱を語り、平安時代の末期を描く。



古事記をめぐる物語

周防 柳【著】『蘇我の娘の古事記』

百濟系渡来人「舟」氏が直面した大化の改新から壬甲の乱までの激動の物語。

他にも『剣客商売(1)～(16)』(池波正太郎) / 『縦ノ木は残った上・中・下』(山本周五郎) / 『たそがれ清兵衛』(藤沢 周平) / 『檸檬先生』(珠川こおり) / 『人間みたいに生きている』(佐原ひかり)